

ねん がつ にち
2024年4月21日

ふっかつせつだい しゅじつ
復活節第4主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

ふっかつせつだいいんしゅじつ、よ ぼくしゃ しゅじつ
復活節第4主日は、善き牧者の主日です。ヨハネ福音には、「わたしは良い羊飼いであ
る。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」という主イエスの言葉が記されています。

しゅ ひつじか
主が羊飼いなのですから、彼に従っているわたしたちはその羊飼いに導かれる羊の
む 群れであります。羊飼いと羊の関係という、羊飼いが先頭に立って羊の群れを導
む いている姿を想像しますが、実際の羊飼いは、群れの先頭に立つというよりも、少し離
す された場所から、時には後ろから、常に見守り、時には正しい方向へ進むようにと追い立
て る存在です。

きょうかい ぼくしゃ せんとう た わたし む
教会における牧者のイメージも、ともすると先頭に立って、「私についてこい」と群れ
を 導く姿を想起しますが、主イエスの語る牧者は、ご自分が賜物としてのいのちを与え
ら されたわたしたちを、ご自分の羊、ご自分の一部として心にかけて、傍らから見守る存在
で す。しかもご自分の羊たちを愛するがあまり、その羊のために命をかけるとまで宣言
さ れます。その上で、イエスは、「ひとりの羊飼いに導かれ、一つの群れになる」こと
が 最終的な目的であるとして、誰ひとり排除することなく、賜物としてのいのちを与えた
す べての人を、自らの群れに取り込むことが神の望みであることを明示します。

よ ひつじか しゅ わたし じぶん ひつじ し どうじ ひつじ
良い羊飼いである主イエスは、「私は自分の羊を知っている」といわれ、同時に「羊
も 私を知っている」と断言されています。果たしてわたしたちは、主を知っているでし
よ うか。どこで主と出会ったのでしょうか。日々の生活の中で出会う人、とりわけいのち
の 危機に直面している人、人間の尊厳をないがしろにされている人、忘れ去られている人
の うちにこそ、主はおられます。

きょうかい ふっかつせつだいいんしゅじつ せかいしやうめい きかんび さだ しがい しゅうどうしや しやうめい
教会はこの復活節第4主日を、世界召命祈願日と定めており、司祭や修道者への召命
の ために特に祈りを捧げる日としています。東京教区では、この主日の午後、教区の
い ちりゅうかい しゅざい どうきやう せい だいせいどう しやうめい きかん さき
一粒会が主催して、東京カテドラル聖マリア大聖堂で召命祈願ミサが捧げられます。

召命を語ることは、ひとり司祭・修道者の召命を語ることにとどまりません。キリスト者すべての召命についても考える必要があります。司祭・修道者の召命のために祈ることは重要ですが、同時に信徒の召命が活かされるように祈ることも重要です。

わたしたちは就職活動や求職活動のように、召命を人間が生み出すことはできません。それは神からの賜物です。召命は、神からの呼びかけです。あの日、ガリラヤ湖の湖畔で、イエスご自身が声をかけられたように、徹頭徹尾、神からの一方的な呼びかけです。主イエスは、常に呼びかけておられます。私たちに必要なのは、その呼びかけに耳を傾け、前向きに応える勇気を、多くの人を持つことができるよう、祈りをもって励ますこととであります。ですから祈りましょう。召命が増えるようにではなくて、主からの呼びかけに
こたえ
る
勇
気
を
持
つ
人
が
増
え
る
よ
う
に
祈
り
ま
し
よ
う。

呼びかけておられる善き牧者、主イエスと出会いましょう。わたしたちは教会共同体の中で、ミサとともに集う中で、告げられる御言葉のうちで、生け贄として捧げられる御聖体のうちに、そこにおられる主と出会います。困難に直面する人、忘れられた人、助けを必要とする人との関わりの中で、小さな人々の一人ひとりのうちにおられる主と、出会います。主はいつも呼びかけておられます。